

【1】 県一周駅伝競走大会開催の前提条件

- ① 緊急事態宣言・まん延防止重点措置宣言が解除されていること。
- ② 山梨県から開催が認められ、コースを通過する自治体からイベントの開催が認められていること。
- ③ 参加関係者の（選手、競技役員・協力団体等）健康管理体制や連絡先を把握していること。
（開催1週間前の体調報告・検温の義務・終了後の2週間の体調管理・検温の義務）

【2】 新型コロナウイルス感染症予防の基本指針

- ① 氏名、連絡先、健康状態を記入した「体調管理チェックシート」の事前提出、事後記録
- ② マスクの着用
- ③ 検温の実施
- ④ 手指の消毒
- ⑤ 三密(密閉、密集、密接)の回避

【3】 感染症発生時の対応

- ①大会終了後の2週間を健康観察期間とし、その間に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、本人かチームの監督が大会事務局（山梨陸上競技協会）に速やかに報告する。
- ②感染者が出た場合、保健所に連絡し指示に従い主催者と保健所と連携しながら、感染に関する公表内容を決定する。その際感染者が不当な差別や偏見にさらされないよう個人情報の保護に留意する。

【4】 大会当日の感染予防策

- ① マスク着用の徹底
 - ・競技役員や全ての大会関係者にマスクの常時着用を義務付ける。
 - ・選手は競技中（ウォーミングアップ、クールダウンを含む）以外のマスク着用を義務付ける。
 - ・選手と接触するスタッフはマスクや手袋を着用する。
- ② ソーシャルディスタンスの確保
 - ・スタート、ゴール、中継所では、可能な限り他人との距離を2m(最低1m)確保し、必要以上の会話は避ける。
- ③ 手指の消毒場所の確保.
 - ・スタート、ゴール中継場所での選手の待機所やスタッフが滞留する箇所には、消毒液を用意する。
 - ・走り終えた選手には、中継所係員が手指に消毒液を噴霧する。
- ④ 開会式・閉会式について、
 - ・別紙要項に従い実施する。
- ⑤ 中継所
 - ・中継所はゾーニングを施し、事前に届け出のあった選手、スタッフ以外の立ち入りを禁ずる。
 - ・ゾーニング内に立ち入る場合は、手指消毒を行う。
 - ・各中継所は、ビニールシートを設置し区分けをしておく。前区間の走者の荷物、本区間の選手の荷物を置くことができる。運搬係は本区間の走者の荷物をビニール袋に入れ次の区間に運ぶ。

⑥ ごみの処理

- ・ 飲み残しの飲料や弁当、使用後のティッシュ等のごみは自己の責任で処理し持ち帰りとする。

⑦ その他

監督会議等で使用する机、競技で使用する車両は消毒する。

【5】選手とチームスタッフの対応

① 体調管理チェックシートの管理・提出

- ・ 選手と各チームのスタッフは1週間前から体調管理と検温を実施し、主催者が定める体調管理チェックシートに記入し、健康状態を確認して提出する。(シートは大会HPで確認する。)
- ・ アスリートビブスは、選手は3枚(前後、荷物)に配布。

② 体調異常者が出た場合の対応

- ・ 大会当日発熱等の異常があった場合は、速やかに選手変更をすること。当日オーダー提出後に異常があった場合は、その区間は欠場となる。従って参加はオープン参加扱いとする。
- ・ 競技中、体調に異変を訴える選手が出た場合、途中棄権の処理をとる。

③ 競技中の注意事項

- ・ 選手は競技中(ウォーミングアップ、クールダウンを含む)を除き、マスクを着用する。
- ・ 輸送バスを使用する場合は、各チーム1名を上限とし荷物運搬(付添)する。

④ 大会終了後

- ・ 選手とチームスタッフは、大会後2週間は体調管理、検温を実施する。
体調異常が発生した場合は、医療機関に相談・受診し、異常があった場合は大会事務局(山梨陸上協会)に速やかに報告する。

【6】大会関係者の対応

① 主催者は、関係者から感染予防を目的とする健康管理の個人情報を取得する際必ず同意を取る。

② 大会に帯同する関係者は、選手、チームスタッフ同様に大会1週間前から体調管理と検温を実施
体調管理チェックシートに記入し、大会当日に主催者に提出する。その他の中継所審判員、交通整理、スタッフらは、競技に立ち会う1週間前から記入し、シートは競技に立ち会う当日地区責任者に提出する。

③ 体調に異常がある関係者は大会参加協力を辞退する。

④ 大会車両に乗車する場合は、3密を避けたり車両の消毒を徹底したりするなど感染予防対策に十分配慮する。

【7】観戦者の対応

① 新聞や情報発信などの広報を利用して沿道の応援は、拍手や旗振り応援主体を呼びかける

【8】レースの管理

① スタート

スタート付近はコーンなどでゾーニングしスタート付近は選手、付添(各チーム1名)、関係者以外立ち入り禁止としソーシャルディスタンスを呼びかける。

② レース中

- ・ 給水は原則としてペットボトルを使用する。選手に手渡すスタッフは事前の手洗い、手指消毒など衛生管理を徹底する。
- ・ 運営管理車(監督車)については、選手の安全を守ることを第一に心掛け走行する。
- ・ 中継所の要員は中継所審判員や本部審判員、荷物管理・運搬員に限定する。

- ・ 中継所はコーンなどでゾーニングし、立ち入りできる人を限定する。

③ レース後

- ・ 中継所やゴールで倒れこんだ選手のケアは個人防護具(マスクや手袋)を着用した関係者が対応する。

【9】 宿泊の対応

① 選手・チームスタッフ

- ・ 宿泊施設を利用する場合は、選手やチーム関係者も必要最小限にとどめる。
- ・ 宿泊の場合は、可能な限りシングルルームを使用する。
やむを得ず、2人以上の部屋を利用する場合は、ソーシャルディスタンスをしっかりとること。
- ・ 宿泊施設での食事や会議、ミーティングなどは「3密」に配慮し、
少人数・短時間で行うよう留意する。外食は極力避け、夜間の外出、関係者以外の面会は控える。
- ・ チームのミーティングは、3密を避けられるスペースがある部屋を利用する。
会合中はマスクを必ず着用し長時間の滞在は避ける。

② 大会関係者

- ・ 大会運営上、必要最小限にとどめる。
- ・ 宿泊施設はシングルルームを基本とする。

【10】 医療体制

- ① 主催者が委嘱した医師・看護師が毎日随行する。異変があった場合は、医師の指示に従う。
- ② 感染発生に備えて医療用個人防護具(マスクや手袋)を事前に準備する。

【11】 取材への対応

- ① 報道各社は、感染症対策マニュアル取材要項で対応して頂く。
開催1週間前の体調管理と検温の義務・体調管理チェックシートの提出。

【12】 警察署・陸上自衛隊・新聞・報道機関等各社の感染症予防対策マニュアルで対応して頂く。

感染症対策：中継所については教育委員会担当に依頼

- 全線審判員は、審判打合せ時体調管理シートを総務員へ提出する。
 - 区間毎の選手・付添（1名）に関しては招集時に、中継所審判員（主任）に体調管理シートを提出する。中継所係員は体調管理シートを全線審判員（記録・情報処理）に渡す。
 - 付添やチーム関係者の掌握は監督へ一任する。
 - 各中継所審判員は中継所係員に体調管理シートを提出する。
 - 付添やチーム関係者の掌握は監督へ一任する。
 - 警察官、白バイ・自衛隊・交通安全協会・立哨員・感染対策各自
- ※未提出者は、その場で作成。事前に配布された用紙を利用。

中継所（20ヶ所） 消毒液＋体調管理チェックシート予備を配布
消毒液は回収しない。

「体調管理シート」は山梨陸上競技協会HPからダウンロードして印刷して使用して下さい。